



マイクロ・ナノバブルや特殊スポンジ内のバクテリアで排水を強力分解

の浮遊はバケテリアの分離及びナノバブル効果を促進させるためほとんど手間はかかりない。スピンジは6～7年以上継続して使用し続けられる試算である。

好評。高野社長は「これまで納入した全工場でトラブル等はほぼ皆無、日々順調に稼働しており安心してお使いいただいている。弊社では将来リモート管理し、トラブルを事前に察知し、お客様との連携によりトラブルを未然に防ぐ対処ができる体制にして行く」と強調。

環境事業および関連製品を扱う東北ウェイスト・エナジー㈱（山形県米沢市、高野富士雄社長）は、段ボール工場向けに「ABBIT（アビット）排水処理システム」の販売を開始した。新技術であるマイクロ・ナノバブルと高出力オゾン、特殊ボンジの組み合わせで処理水の臭いまで強力に除去。作業不要のメンテナンスフリーで、スマッシ

(汚泥) 等の産業廃棄物の処理が不要なためランニングコストに優れています。

新開発だ。これらの融合で新たな排水処理システムが実現した」と強調する。

販売開始より、食品加工や機械部品製造など10工場以上で実績がある。段ボール向けではこれから東北地区の大手段ボール工場で数カ月現地試験を実施。排水量をはじめインキや糊も処理し、処理速度等にもよるが基本はタンク3基（1基＝排水量／日）で対応。コンパクトな省スペース設計も特長である。

東北ウェイストエナジー

最新技術で排水処理

A
B
B
I
T

メンテ不要、臭い除去

さらに「SDGsに取り組む未来志向のエンブューザーに自社の取り組みをアピールする材料として、SS（浮遊物質量）含有量）220mg／t」の可能性を秘めている（高野社長）。

二作に展開している。

組む未来志向のエンジニア ーザーに自社の取り組み		をアピールする材料とし ても、活用している工場 が多い」とです。		(最大値 220000 mg / トック トック) から 5 mg / トック以 下、SS (浮遊物質量)		は 540 mg / トック (最大 値 14000 mg / トック) が 16 mg / トック まで下が っている。冬の積雪によ る水温 10°C のコンディシ ョンでも問題なく稼働し ている。		アとして従事していたこ とが縁で、「段ボール産 業の技術発展と、時代に 合った環境対応を実現し たい」との想いが、今回 の経緯になった。販売目 標として、「5年以内に 100社」(同) を掲げ る。		東北ウェイストエナジ ーは昨年 8月創業。廃棄 物再資源化プラントや廃 タイヤリサイクルシステ ムなどの環境事業を中心 に展開している。	
物質		実験では (単位は mg / トック トック)、導入前 BOD (生 物化学的酸素要求量) 5 00 mg / トック (最大値 1 1000 mg / トック) が 23 mg / トック に、COD (科 学的酸素要求量) は 10 0 mg / トック (最大値 15 0 mg / トック) から 17 mg / トック、n-Hex (フル マルヘキサン・抽出物質 効であり、「非常に多く ムなどの環境事業を中心		循環させて工場内再利用 も可能だ。アニロックス ロールや印版洗浄にも有 効であり、「非常に多く ムなどの環境事業を中心		また、処理水の中には、 ナノバブルが数カ月以上 継続して存在するため、 循環させて工場内再利用 も可能だ。アニロックス ロールや印版洗浄にも有 効であり、「非常に多く ムなどの環境事業を中心		から東証の分類および呼 称が変更された、海外か らの投資を活発化するた めと聞く。外国の投資家 は、環境対応に取り組ん でいる企業は未来性があ ると判断し投資を行つ。 今後、国内でも同様の傾 向が予想される。物流を 支える段ボール産業の一 層の発展に寄与したい」 とした。		高野社長は「今年 4月 以前、段ボール交換作 業に高野社長がエンジニア ーとして従事していたこ とが縁で、「段ボール産 業の技術発展と、時代に 合った環境対応を実現し たい」との想いが、今回 の経緯になった。販売目 標として、「5年以内に 100社」(同) を掲げ る。	
物質		は昨年 8月創業。廃棄 物再資源化プラントや廃 タイヤリサイクルシステ ムなどの環境事業を中心 に展開している。		問合せは、東北ウェイ ストエナジー・東京支社 ℡080-7590-010 992まで。		アとして従事していたこ とが縁で、「段ボール産 業の技術発展と、時代に 合った環境対応を実現し たい」との想いが、今回 の経緯になった。販売目 標として、「5年以内に 100社」(同) を掲げ る。		高野社長は「今年 4月 以前、段ボール交換作 業に高野社長がエンジニア ーとして従事していたこ とが縁で、「段ボール産 業の技術発展と、時代に 合った環境対応を実現し たい」との想いが、今回 の経緯になった。販売目 標として、「5年以内に 100社」(同) を掲げ る。			